

## 木造興正菩薩觀尊坐像 1 軀(莊嚴淨土寺)

### 木造興正菩薩觀尊坐像

もくどうこうしょうぼさつえいそんざぞう

### 指定有形文化財

美術工芸品[彫刻]

### 所有者

宗教法人 莊嚴淨土寺(しょうごんじょうどじ)

### 所在地

大阪市住吉区帝塚山東

### 紹介

法量：像高 52.1cm



住吉大社の東に位置する莊嚴淨土寺は、寺歴が平安時代に遡ると伝える寺院だが、大坂の陣後、寺観を復興するにあたり、本末関係にあった奈良西大寺と緊密な関係が築かれ、律宗の大坂における教学の拠点として繁栄した。

本像は、鎌倉時代に真言律宗中興の祖とされた興正菩薩觀尊の 80 歳を記念して弘安 3 年(1280)に造像された西大寺像の 3 分の 2 の大きさの精緻な複写であり、莊嚴淨土寺が真言律宗の拠点であることを象徴している。

玉眼を嵌入した寄木造像で、頭部は体部に差し首する。頭部の内刳りの中に法華經の卷子が納入されており、その奥書から、正徳 3 年(1713)に西大寺 52 世高算の弟子である莊嚴淨土寺宗算の造像であることがわかる。納入品を伴った貴重な彫像であり、歴史資料としての価値も高い。